

水産資源の未来予測高度化事業

堀 恭子・伊藤 毅史・山田 秀樹・吉田 幸史

佐賀県玄海地区における漁船漁業は、漁獲量の減少、魚価の低迷、コスト増等により厳しい状況にあり、生産性向上が喫緊の課題となっている。一方、漁船漁業は天然資源を利用しており、資源の持続的な利用の観点も必須である。

これらの課題に対応するため、本事業では、水産資源の予測を3段階のレベル、すなわち、

漁場予測 数日単位で好漁場を予測

来遊予測 漁期単位で好不漁を予測

資源予測 数年単位で資源の増減を予測

で取り組み、これらの予測を有効活用し、効率的な漁業を実現することで、漁業の生産性及び持続性の向上を図る。

内容および結果

1 漁場予測

沿岸いか釣り漁業の主な対象種であるケンサキイカの漁獲と環境要因の解析により、漁場予測の開発に取り組んだ。具体的には、操業毎の漁獲重量・個体数、海洋環境（水深別の水温、塩分、流向流速）の関係を解析している。

本試験の結果は現在とりまとめを実施しており、令和5年度中に学術雑誌への投稿を予定している。

2 来遊予測

いわし網漁業の対象種であるカタクチイワシの漁獲と、資源量、環境要因等の解析により、来遊予測式の開発に取り組んだ。具体的には、佐賀県玄海地区におけるいわし網によるカタクチイワシの漁期別の漁獲量と、カタクチイワシ対馬暖流系群の資源量、気象海況（風向風速、水温等）の関係を解析している。

本試験の結果は現在とりまとめを実施しており、当センター研究報告への投稿を予定している。

3 資源予測

玄海地区で水揚げされる魚種のうち、国資源評価事業の対象外の魚種である、タチウオ、アカムツ、バイガイ等について、県独自の資源評価を実施することを目的とし、水揚げデータなどの収集を行った。